

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

## ②施設・事業所情報

名称：アメリカ山徳育こども園	種別：児童分野 保育所	
代表者氏名：田島 佳津江	定員（利用人数）： 90（104）名	
所在地： 横浜市中区元町1-11-3 アメリカ山公園3階		
TEL：045-663-8737	ホームページ：http://americayama.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成24年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：一般社団法人三和徳育会		
職員数	常勤職員： 26名	非常勤職員 10名
専門職員	園長 1名	栄養士 1名
	保育士 24名	調理員 3名
	看護師 2名	事務員 1名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室6室	調理室・事務所・休憩室・調乳室・ 沐浴室・教材庫・地域打ち合わせ室・ 乳児・幼児トイレ など

## ③理念・基本方針

## 《理念》

- ・体験の数だけ成長がある
- ・笑顔の数だけ幸せがある

## 《基本方針》

- ・園、家庭、地域社会の三位一体で養護教育を整える
- ・子どもと保護者に寄り添い、子どもの成長と保護者の子育てを援助する
- ・園と保護者がお互いに尊敬と感謝し合う気持ちを大切にする

## ④施設・事業所の特徴的な取組

地下3階のみなとみらい線「元町中華街駅」の改札を出てエレベーターで3階に上がれば保育園があり、屋上はアメリカ山公園になっています。横浜初の立体施設です。生後57日から5歳児までの定員は90名ですが、現在は104名が在籍しています。開園時間は平日7時半～19時半、土曜日は7時半～18時半です。天気の良い日はアメリカ山公園や山下公園、近隣の公園に出かけ、雨の日は同じフロアに併設されている法人の空き部屋を利用して遊ぶこともあります。園全体がワンフロアになっており、子どもの背丈程度のおもちゃ棚で仕切って各クラスのエリアにしています。必要な場合はカーテンで仕切ることもできます。お互いのクラスの気配が感じられるので、子どもたちは他クラスの活動を見に行ったり、仲間に入れてもらったり、保育士もお互いに見守られながら手助けを受けながら保育をしています。必要に応じて棚を移動させてホール・舞台・大教室に変化させることができます。「体験の数だけ成長がある」という保育理念に基づき、英会話やダンス、中国語、日本

茶を味わう、科学教室、プログラミング入門などの体験や地域の演奏家やマジシャンなどに接する機会を作っています。また地域とのつながりでイベントの参加やSDGs活動の清掃に取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年4月16日（契約日）～ 2022年1月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2015年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆より質の高い保育に向けた取組や人材育成をおこなっています

日案・週案・月間指導計画・年間指導計画、そのどれもが保育の自己評価、振り返りを記載する書式になっています。保育のねらいに対してどうだったのか、子どもたちの意欲、取り組む過程、成長、うまくいかなかったことなど反省が記載されています。次にどのように進めていけばいいのか、何に留意すればいいのか、個人でもクラスでも考え、日々の保育をおこなっています。職員は毎日終礼を利用して1日の保育を振り返り、施設長や主任に相談をしたり、同僚から助言をもらっています。0～2歳児は毎日、個人記録をつけています。より細かく成長を追ってみることができ、それぞれの子どもに寄り添った丁寧な保育をおこなうことができている。保育士は自己主張を始める難しい時期の子どもたち一人ひとりの心や身体の発達に合わせて対応しているので、子どもたちは穏やかに落ち着いてのびのびと毎日を過ごしている様子がうかがえました。

また、研修制度が充実しており、外部の研修にも積極的に参加できるように配慮し、研修参加者は報告書を提出して園内で共有しています。職員は年度初めに面談シートを作成し、園長は必要に応じて面談をおこない、人材育成に力をいれています。

◆園は地域との交流を積極的におこなって、子どもたちは豊かな経験を積んでいます

園は保育方針に「園、家庭、地域の三位一体で養護教育を整える」を挙げているように、子どもたちは商店街のSDGs活動の清掃やクリスマスの飾り付け、ハロウィンなどのイベントに参加したり、幼保小連携事業の中区保育施設駅伝大会などに参加したり、地域の行事には積極的に関わっています。また「体験の数だけ成長がある」という園の理念のもと、英会話やダンス、プログラミング入門などの時間を設けたり、地域の「匠プロジェクト」のメンバーによるピアノやチェロ演奏を聴いたり、茶道講師による日本茶を味わう体験などをしており、子どもたちが様々な豊かな体験ができるようにしています。園は中学生の職業体験や高校生のインターンシップの受け入れをしたり、「中区グランマ保育園事業」を実施し、育児相談を受けたり、「とくいくパレット」では臨床心理士による育児講座を開催して積極的に地域と交流しています。

◇改善を求められる点

◆今後を見据えてICT化を進めていくことが望まれます

現在、園では写真共有システムや緊急時にメール連絡網サービスを利用していますが、今回の第三者評価に関わるアンケートで「日頃の園内の様子を共有してほしい」という意見が複数ありました。現在の保護者の生活形態やニーズに合わせて、例えば日々の連絡帳機能、園だよりなどの各種お知らせの配信、園での生活がわかる写真や動画の配信など、ICT化の導入を検討していくことが、保護者の利便性の向上やコミュニケーションの強化につながると考えられます。更に、各種指導計画や個人日誌などにおいてもICT化に向けて整備していくことにより、職員の業務の効率化につながり、毎日の時間や気

持ちの余裕を生み、更により良い保育につながると期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価の結果をもとに、自らを省みる良い機会に改善修正のきっかけにさせていただきます。三和徳育会は多様性、寛容性を大切にしています。大人の一挙手一投足が子どものお手本であり、自らの姿が子どもの鏡となることを職員たちは常に意識しながら、子どもたちの育みに関わるよう努め、客観的な見方と冷静な態度で仕事に臨むことを心がけます。

第三者評価の結果はその実践の自己点検の良い参考になります。

また、保育園職員の取り組みがこの第三者評価の結果によって、保護者の保育園に対する理解が得られれば、保育サービス事業と思われがちな関係から保育園と利用家庭の相互理解、互いにリスペクトし合える関係と、信頼感、安心感が醸成されることを期待しています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり